

ミュージアム

2019年9月、京都で「文化をつなぐミュージアム—伝統を未来へ—」をテーマに、国際博物館会議京都大会2019が日本で初めて開催されます。世界中から様々な分野のミュージアムの専門家が集まります。

そこで、今回、京都府の府立施設の資料所蔵数をみてみました。(平成29年度末現在)

府立京都学・歴彩館の資料所蔵数は、文献資料77万9千点(冊)、現物資料5万4千点(冊)で、合計83万2千点(冊)となっています。文献資料が全体の9割強を占めています。(図1)

府立郷土資料館は、山城は5万7千点(考古資料8千点、民俗資料5千点、歴史資料4万4千点)、丹後は11万2千点(考古資料1万点、民俗資料7千点、歴史資料9万4千点)となっており、山城、丹後いずれも、歴史資料が約8割を占めています。(図2)

この秋、これら施設の特別展示等が開催されますので、是非、足をお運びください。

■府立京都学・歴彩館

「平成30年度東寺百合文書展～中世の古文書が近代によみがえる!～」10/13(土)～11/11(日)(後期)

■ふるさとミュージアム山城(府立山城郷土資料館)

特別展「文字のささやき～京都府出土の文字資料～」10/13(土)～12/9(日)

■ふるさとミュージアム丹後(府立丹後郷土資料館)

特別展「天橋義塾と自由民権運動～人は人たるの本分を尽くす～」10/27(土)～12/9(日)

※ 国際博物館会議：世界137の国及び地域から博物館の専門職員が会員として参加する国際的な非政府機関

※ 詳しくは、各施設のホームページをご覧ください

図1 府立京都学・歴彩館の資料所蔵数(平成29年度末)

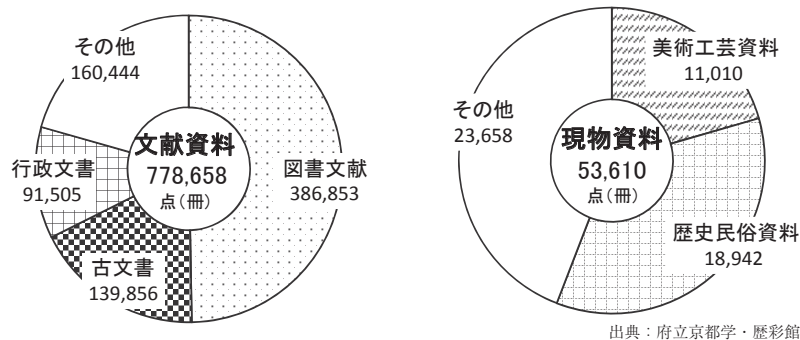


図2 府立郷土資料館の資料所蔵数(平成29年度末)

